



いいね👍名古屋

千

字 万 感

株式会社日立製作所

中部支社長執行役員 ゆすき 湯次 善磨

これまで東京・神奈川・茨城と関東圏にしか住んだことのない私が、名古屋に赴任してはや一年が経ちます。当初、名古屋が地元の方々にご挨拶に何うと「なんでも手近にあつて大変便利で過ごしやすいところですよ」といった旨を皆さんが仰っておられた。

さて、本当にそうであった。お客様も行政機関も大自然も古の街並も全て近くにある。コロナ禍で働き方改革も進んでいるが、より一層充実した時間を公私共々過ごさせていただいている。

今年に入り中部圏での仕事にも慣れ、一人でのプライベートな時間を持とうと2本のライブに出かけた。先ずは1月11日(水)の愛知県芸術劇場での沢田研二のライブ。私より少し上の世代の往年のファンの方が多かったが、まだ小学生で何が危険なのかも解らず聞いていた「危険な二人」、成績急降下の絶望的な高校受験の冬に真っ赤に燃え上がらせてくれた「TOKIO」などのヒット曲に身をまかせ瞬く間に終演となり、錦でカレーうどんを食べて帰った。驚くべきは、定時に退勤してライブ観賞して食事して21時前には帰宅できていたこと。

次は2月19日(日)の日本特殊陶業市民会館でのザ・クロマニヨンズ(リンダ・リンダのTHE BLUE HEARTSの派生ロックバンド)。こちらも桑名でのお客様とのゴルフを終えてからでも18時の開演に十分間に合った。超満員の会場、私の前列では高校生と思しき3人組が引きちぎれんばかりに首を振ってノッている。左隣は息子と母親の親子連れ、興奮して飛び上がる息子の背中を母親がトントンと優しくたたいて落ち着かせる。終演後の分割退場で待たされている間に母親と話したところ、息子さんは精神疾患を抱えており2人で思いっきり騒ぐために来たとのこと。お母さんはTHE BLUE HEARTSの大ファン。素敵な親子だなと思った。そしてこの皆がハッピーな空間に、社会課題のダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンのヒントがあるのではとさえ感じた。

昨年、中経連の経済視察で訪れたスペイン・バルセロナでは、市役所やスタートアップの幹部より「バルセロナはコンパクトで新旧の街が融合した利便性に優れた都市で且つオープン、よって有能な若者が集まりイノベーションを起こしている」旨を伺った。名古屋もこれに倣えると感じ、私も名古屋や中部圏の魅力を発信し続けていこうと思う。いいね👍名古屋!